

## 物流の適正化・生産性向上に関する自主行動計画

2023年12月4日

精糖工業会

物流の適正化・効率化の実現に向けた、発荷主事業者としての当会の自主行動計画を下記の通り定める。

### 1. 発荷主事業者・着荷主事業者に共通する取組事項

#### (1) 実施が必要な事項

##### ■ 物流業務の効率化・合理化

##### ① 荷待ち時間・荷役作業等にかかる時間の把握

発荷主事業者としての出荷に係るトラックの入退場時刻、荷役作業時間、附帯作業時間を記録することにより、出荷に係る荷待ち時間及び荷役作業等（荷積み・荷卸し・附帯業務）にかかる時間を把握します。

※荷待ち時間とは、集貨又は配達を行った地点（集貨地点等）における到着日時から出発日時までの時間のうち、業務（荷積み、荷卸し、附帯業務等）及び休憩に係る時間を控除した時間（待機時間）のこと。

※附帯業務とは、品代金の取立て、荷掛金の立替え、貨物の荷造り、仕分、保管、検収及び検品、横持ち及び縦持ち、棚入れ、ラベル貼り、はい作業その他の運送事業に附帯して一定の時間、技能、機器等を必要とする業務のこと。

##### ② 荷待ち・荷役作業等時間発着 1 時間削減又は 2 時間以内目標

物流事業者に対し、長時間の荷待ちや、運送契約にない運転等以外の荷役作業等をさせません。

パレットに積み付けた状態で出荷準備を行い、トラックへの積込をフォークリフトを用いた機械荷役とすることにより、荷待ち・荷役作業等にかかる時間を発着で 1 時間削減する又は計 2 時間以内とすることを目標とします。その上で、目標を達成した場合には、更なる時間短縮に努めます（※）。

また、物流事業者が貨物自動車運送事業法等の関係法令及び法令に基づく命令を遵守して事業を遂行することができるよう、必要な配慮を行います。

※トラックドライバーの1運行の平均拘束時間のうち、荷待ち、荷役作業等にかかる時間は計約3時間と推計されています。これを各荷主事業者の取組によって1時間以上短縮することを基本的な考え方としています。

### ③物流管理統括者の選定

物流の適正化・生産性向上の取組を事業者内において総合的に実施するため、物流業務の実施を統括管理する者（役員等）を選任します。物流管理統括者は、物流の適正化・生産性向上に向けた取組の責任者として、販売部門、調達部門等の他部門との交渉・調整を行います。

### ④物流の改善提案と協力

発荷主事業者・着荷主事業者の商取引契約において物流に過度な負担をかけているものがないか検討し、改善します。また、取引先や物流事業者から、荷待ち時間や運転者等の手作業での荷積み・荷卸しの削減、附帯業務の合理化等について要請があった場合は、真摯に協議に応じるとともに、自らも積極的に提案を行います。

## ■運送契約の適正化

### ⑤運送契約の書面化

運送契約は書面又はメール等の電磁的方法を原則とします。

### ⑥荷役作業等に係る対価

運転者が行う荷役作業等の料金を支払う者を明確化し、物流事業者に対し、当該荷役作業等に係る適正な料金を対価として支払います。

### ⑦運賃と料金の別建て契約

運送契約を締結する場合には、運送の対価である「運賃」と運送以外の役務等の対価である「料金」を別建てで契約することを原則とします。

### ⑧燃料サーチャージの導入・燃料費等の上昇分の価格への反映

物流事業者から燃料サーチャージの導入について相談があった場合及び燃料費等の上昇分や高速道路料金等の実費を運賃・料金に反映することを求められた場合には協議に応じ、コスト上昇分を運賃・料金に適切に転嫁します。

## ⑨下請取引の適正化

運送契約の相手方の物流事業者（元請事業者）に対し、下請に出す場合、⑤から⑧までについて対応することを求めるとともに、多重下請構造が適正な運賃・料金の収受を妨げる一因となることから、特段の事情なく多重下請による運送が発生しないよう、相手方の物流事業者に注意を促します。

## ■輸送・荷役作業等の安全の確保

### ⑩異常気象時等の運行の中止・中断等

台風、豪雨、豪雪等の異常気象が発生した際やその発生が見込まれる際には、無理な運送依頼を行いません。また、運転者等の安全を確保するため、運行の中止・中断等が必要と物流事業者が判断した場合は、その判断を尊重します。

## (2) 実施することが推奨される事項

### ■物流業務の効率化・合理化

#### ①パレット等の活用

パレット等を活用し、荷役時間等を削減します。また、レンタルパレット等を活用する場合には、本来の目的以外で使用せず、使用後は所有者等に適切に返却します。取引先や物流事業者からパレット等の活用について提案があった場合には、協議に応じ、積極的なパレット等の活用を検討します。

#### ②入出荷業務の効率化に資する機材等の配置

指定時間に着車したトラックにおいて、フォークリフト作業員待ち等の荷待ち時間が発生しないよう、適正な数のフォークリフトやフォークリフト作業員等、荷役に必要な機材・人員の配置に取り組みます。

#### ③輸送方法・輸送場所の変更による輸送距離の短縮

トラック輸送の輸送距離を短縮し、トラック運転者の拘束時間を削減するため、配送先までの地理的要因を踏まえ、長距離輸送におけるモーダルシフト、幹線輸送部分と集荷配送部分の分離、集荷先・配送先の集約等の実施を検討します。

#### ④共同輸配送の推進等による積載率の向上

貨物の輸送単位が小さい場合には、他の荷主事業者との連携や物流事業者への積合せ輸送の実施により、積載率の向上に努めます。

## ■ 運送契約の適正化

### ⑤ 物流事業者との協議

運賃と料金を含む運送契約の条件に関して、物流事業者に対して積極的に協議の場を設けます。

### ⑥ 運送契約の相手方の選定

契約する物流事業者を選定する場合には、関係法令の遵守状況を考慮するとともに、働き方改革や輸送の安全性の向上等に取り組む物流事業者を積極的に活用します。

## ■ 輸送・荷役作業等の安全の確保

### ⑦ 荷役作業時の安全対策

荷役作業を行う場合には、労働災害の発生を防止するため、安全な作業手順の明示、安全通路の確保、足場の設置等の対策を講じます。

## 2. 発荷主事業者としての取組事項

### (1) 実施が必要な事項

#### ■ 物流業務の効率化・合理化

##### ① 出荷に合わせた生産・荷造り等

出荷時の順序や荷姿を想定した生産・荷造り等を可能な限り行い、荷役時間の短縮に努めます。

##### ② 運送を考慮した出荷予定時刻の設定

運行管理上問題が生じない余裕のあるスケジュールとなるよう、物流事業者に対し、配送依頼及び配送情報の提供を行います。

### (2) 実施することが推奨される事項

#### ■ 物流業務の効率化・合理化

##### ① 出荷情報等の事前提供

貨物を発送する場合に、物流事業者や着荷主事業者の準備時間を確保するため、出荷情報等を早期に提供します。例えば、出荷オーダー確定が当日になった場合、輸送手段を見込みで確保する必要が生じ、急な輸配送依頼や荷待ち時間の発生につながるため、可能な限り出荷の前日以前に出荷オーダーを行います。

②混雑時を避けた出荷

道路が渋滞する時間や混雑時間を避け、出荷時間の分散に努めます。